

ミニトマト管理情報(定植～初期管理について)

令和5年5月

JAおおぞらミニトマト部会協議会

石川県奥能登農林総合事務所

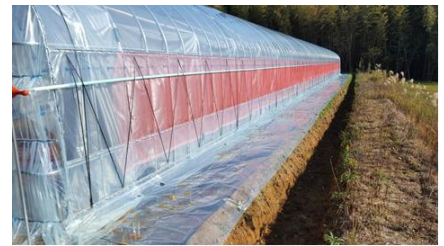
1 圃場準備

- ① 土壌養分の蓄積を考慮して施肥量を加減する。
(基肥施用前に土壌分析を行い施肥量を決定する)

※新台木品種「キングバリア」について

- ・草勢がやや強いので、元肥の施肥量を栽培指針から2割程度減らす。
- ・がんばる根(慣行台木)より青枯病に強いが、**排水対策など基本管理は必須**

- ② 早期にハウス周りの排水溝を掘り直し、排水溝に雨水が溜まらないようにする。(降雨後に確認！)
- ③ ハウス内への雨水の侵入防止に、ハウス側面から排水溝にかけマルチなどを敷く。【右の写真参照】



※梅雨に入る前にもう一度、排水口の泥や落ち葉、**雑草などを取り除き**、スムーズに水が流れ出るようにする。

2 定植までのポット苗管理

- ① 苗が届いたら、徒長を防ぐために直ちにコンテナから出す。また、株元まで十分に光を当てるため、葉が重ならないように鉢を広げる。
- ② かん水は午前中に行い、夕方には鉢土表面が乾く程度にする(徒長の防止)。

3 定植

- ① 苗の定植適期は第1段花房開花始め。ただし置きすぎて老化苗や徒長苗とならないよう注意する。老化苗は根痛みで青枯病も出やすくなる。
- ② 接ぎ木部分が埋もれないように浅植えとする。
- ③ 定植直後は、鉢土とほ場の土をなじませるため、1株当たり1ℓ程度を株元に手かん水する。

4 温度計と遮光ネットの確認

- ① ハウス内の温度を確認するため、ハウス内の中央の見やすい位置に最高温度と最低温度がわかる温度計を設置する(古い温度計は壊れている場合があるので注意!)。
【ミニトマトの生育適温は20～25℃。熱中症にならないためにも温度を確認する】
- ② 梅雨明け前(例年7月上旬)から、ハウス上部に遮光ネット(遮光率30～35%)が掛けられるように、早めにJA各支店に発注するなど、準備しておく。
→去年は遮光のタイミングが難しく、強日射による着色不良が多発した。

- ③ 気温上昇に伴い、夜間の外気温が12℃以上に安定したら、病害予防や養分消耗防止のため夜間もサイド(側窓)を開けて換気する。

【風雨の強い日はハウスを閉め切り、風が弱まったら病気の発生を防ぐため、すぐにサイドを開ける】

5 かん水

- ① 活着～3段花房開花期までは、しおれない程度とする。
- ② 晴天時の午前中にかん水する。裂果を防ぐため、収穫直後(午前中)に行う。
- ③ 雨天時や曇天時は、病気の発生を防ぐため、茎葉のしおれが大きい場合のみ、かん水する。

(参考)pFメーターを用いることで、土の水分状態を数値で確認できます。

例 トマトの pF 値目安

- ・ 2段果房着果まで pF1.8～2.1(やや乾き気味)
 - ・ 2段果房着果以降 pF1.5～2.0(かん水量増やす)
- ※先端は深さ15cm程度。ハウス中央部は乾きやすいので



pFメーター

6 トマトーン

- ① 着果、果実肥大促進のため、1花房に5花程度開花した頃を目安にトマトーンを処理する【2度がけはしない】。トマトーンは朝夕に行い、暑い時間帯を避ける。特に1段目は確実に着果させ、なり癖をつけるために重要
 - ② 若葉や頂芽にトマトーンがかかると縮れるので、花だけに処理する。
 - ③ 高温(35℃前後)による着果不良が予想される場合は、トマトーンの濃度を200倍とし、処理間隔を3～4日に短縮して着果促進に努める。
- ※作成したトマトーンはできるだけ早く(最長でも1か月以内に)使い切る。

【ホルモン処理濃度の目安】

15℃以下	100倍	10日間隔
16～20℃	150倍	7～10日間隔
21℃以上	200倍	5～7日間隔



7 下葉かきなど

- ① 古くなった下葉は、収穫が終了した果房の下まで順次取り去り、通気性を良くする。
 ※一度に多くの枚数をかき取らず、1回に数枚/株程度とする。
 ※わき芽や下葉は病気の発生を防ぐため晴天日の午前中に取り除く。

- ② 収穫、下葉かきが終わり次第、順次つる下げを行う。
 主枝先端部（先端より 60～90cm）の誘引角度は45度以上にする。あまり横すぎると芯止まりが出やすくなる。
 つるの折れを防ぐため、やや萎れ気味となる晴天日の午後に行う。
- ③ 草勢が弱い場合は、わき芽除去を控える。また、わき芽を1葉残して摘除することで葉数（葉面積）を確保し、草勢を調節することができる。
 【残したわき芽の葉から発生する枝は、しばらく伸ばし主枝先端より高くなる前に取り去る】
- ④ 着果数が多すぎると、梅雨明け後の草勢や着果不良の原因となる（特に4～6段花房）ので、1果房あたり20～30果を目安に摘蕾する。

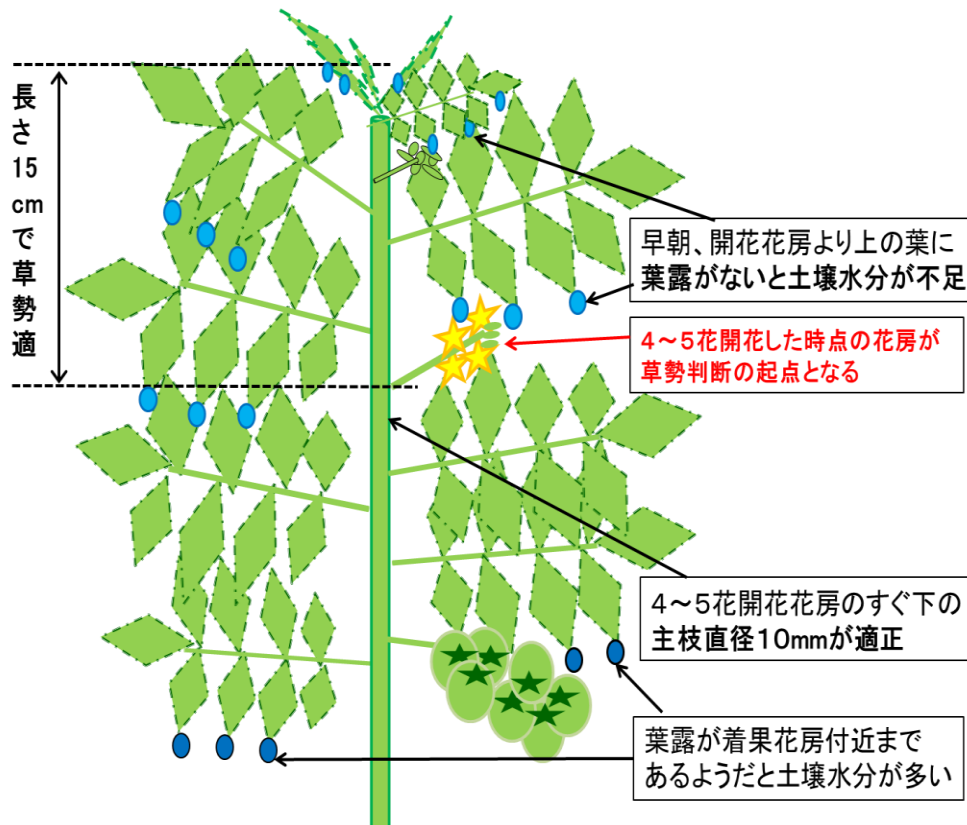
草勢の適正值 ※指標の開花花房とは、4～5花開花した花房を指す

草勢の指標	適正值(管理目標)
開花花房から主枝先端までの長さ	15cm以上
開花花房すぐ下の主枝直径（径の細い側）	10mm



※ 右の株だと草勢がかなり弱い！（タバコの太さ約 8mm、長さ約 8.5cm）

ミニトマトの草勢および土壤水分の簡易判断



8 追肥

- ① 追肥は、草勢を見て、少量ずつ施用する。【いっぺんに追肥しない】
- ② 3段花房開花以降、過繁茂の心配がなければ、遅れずに追肥を開始する。
液肥10号：各段開花始めに1回1～1.5kg/a（200倍以上）
有機エイト：奇数段開花始めに1回3kg/a ※1a=100㎡
※即効性を求める場合、液肥（液肥10号）400～500倍の葉面散布を追加する

9 芯止まり・葉先枯れ対策

- ① 芯止まり防止のため、誘引の際は主枝先端の角度を45度以上に保つ。
- ② 適切なかん水管理に努めるとともに、3～4段花房開花頃から週に1回程度、カルシウム資材の葉面散布（カルハード500～1,000倍等）を行う。散布の範囲は主枝先端部から30～40cm程度とする。

10 病害虫の発生防除

- ① 着果数が増えると、成り疲れの株が見られるので、適期適切な栽培管理を心掛け、収穫果の階級低下や病害虫を予防する。
- ② 雨天が続くと灰色かび病やすずかび病が発生しやすくなるので、晴れ間を見て、7日～10日間隔で農薬を散布する。同一剤の連用は避ける。
- ③ 農薬を使用する際、袋やビンに記載されている使用方法、回数を必ず守る。
- ④ 農薬などについて、分からないことがあれば、JAや奥能登農林総合事務所に使用前に連絡する。

※出荷先へは産地で使用する農薬の一覧表を送っています。農薬は栽培指針に記載のものだけをご使用ください。どうしても他に使いたい農薬がある場合、事前にJAや農林へご相談ください。

JAおおぞら（高森）

0768-52-3813

石川県奥能登農林総合事務所（法桑） 0768-26-2323